



諫高だより

# 藤紫

ふじあざ



長崎県立諫早高等学校 〒854-0014 諫早市東小路町1番7号  
TEL 0957(22)1222 FAX 0957(22)5104  
http://www.isahaya-highschool.ed.jp

## 『山のロザリア』

ロシア民謡  
作詞 丘灯至夫

山の娘 ロザリア  
いつも一人 うたうよ  
青い牧場(まきは) 日昏(ひぐ)れて  
星の出るころ  
帰れ帰れ も一度  
忘れられぬ あの日は  
涙ながし別れた 君の姿よ

\* \* \* \* \*

そこは、江戸川沿いにあった。  
揺れる樹木の幹や枝の間から、遠くに筑波の頂(いただき)が見えた。  
はらはら細かい雪が降り続く寒い朝、下宿の庭先で静かに車が止まった。  
お母さんが「あけみさん」を抱いて、降り立たれた。  
「『あけみ』が、『あけみ』が、亡くなったんです。・・・」  
私は、ぼう然と立ちつくした。  
彼女は、風邪を拗(こじ)らせて入院していた。

「あけみさん」のお別れにクラスの皆が参列した。  
そして、生徒の涙ながし歌う「山のロザリア」が、あたりの悲しみを深くした。  
「山のロザリア」は、クラスの愛唱歌であった。  
お坊さんは、何度も何度も涙され、その度にお勤めが途切れた。

秋も深まったある日、江戸川沿いのこの地を訪れた。  
乗合バスがカーブで大きく揺れると、土手の中腹に社(やしろ)が見えた。  
参道に沿った木々はすっかり葉を落としていた。  
昔と変わらぬ姿であった。  
しかし、川を渡りきると景色は一変した。  
学校も町並みも昔の面影はなかった。  
下宿のおじさんも、おばさんもすでに亡くなられていた。  
歳月は無情迅速で、はや三十五年の時が過ぎ去っていた。  
夕暮れの中、「あけみさん」のお墓に最後のお別れをしてこの地を離れた。  
宿にたどり着くまで、何故か、心にむなしさだけが漂った。

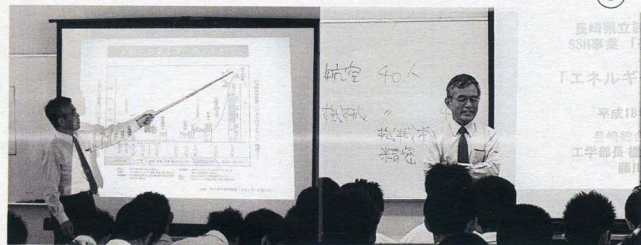
(校長 福島健一郎)

## 諫高もすっかり秋

もう10月も下旬となり、時折温かい日差しが心地よいながらも、諫高を囲む周りの木々達は、冬支度のために緑1色から黄色茶色へと色付き、どんどんと葉を落としています。掃いても掃いても落葉がどっさりで、「ああ、外庭掃除も大変だ。」と言う声が聞こえてきて、諫高ももうすっかり秋です。もうすぐ、寒い冬がやって来ます。



## 理数科講演会



2006.10.7(土)

10:00~12:00

講師 藤川 卓爾先生

(長崎総合科学大学工学部機械工学科教授)  
(長崎総合科学大学工学部長)

10月7日(土)、本校において、理数科1・2年 160名を対象に夢開発講演「エネルギーのはなし」が行われました。パワーポイントスライドを使用し、日常生活の中での「エネルギー」利用や「電気エネルギー」の仕組み、後半では21世紀における化石燃料の将来や新たなエネ

ルギーの開発の研究紹介などを話されました。生徒もエネルギー消費の立場であるだけでなく、研究開発側の目線で物を考えるという大変貴重な経験が出来ました。

~生徒の感想から~

やはり、エネルギーはあと40年後に無くなるかと先生が話された時は、不安を感じました。人間は今、いろんな方法でエネルギーを作っていますが、いろんな事にエネルギーを使っているという事も事実です。エネルギーは目に見えませんが、『世界の石油原始総資源量と富士山の容積』の所で、富士山の容積の内使えるのは1/5で、その内約半分は使用済みと言うのはびっくりしました。今回の話を学校全体で聞く事が出来たら、もっと良かったと思います。

【藤川先生の講演を聞き入る理数科の生徒達】

